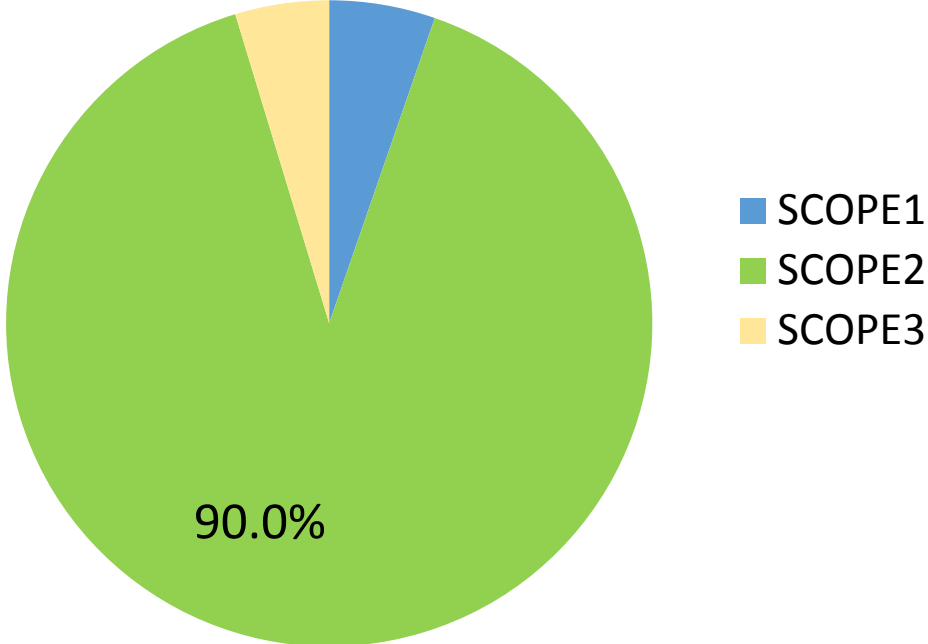


# 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業種：銀行持株会社</li> <li>● 事業概要：銀行、信託銀行、証券専門会社、その他銀行法により子会社とすることができる会社の経営管理等</li> <li>● 事業規模：連結子会社209社及び持分法適用会社56社で構成され、2017年度業務粗利益 38,542億円、連結会社における従業員 117,321人</li> </ul>
2.削減目標案	<p>＜<u>Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>2050年の温暖化対策目標の策定を展望し、持続可能な社会の実現に貢献するため、国の目標と統合的な温暖化対策への取り組みを推進していく。削減の具体策として、本社ビルの再エネ化、電気自動車の利用拡大等を検討中。</p> <p>＜<u>Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>Scope3の太宗を占める可能性が高いカテゴリー15「投資」（GHGを大量に排出するプロジェクトへの長期融資を含む）に関して、ファイナンスを提供する火力発電（石炭、及びOil&amp;Gas）セクター事業からのGHG排出量算定を検討中。</p>

# 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況 (以下は2017年度の排出量)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : 11,836[tCO2]</li> </ul>								
	 <p>A pie chart illustrating the distribution of GHG emissions across three scopes for the year 2017. The largest portion is SCOPE2 at 90.0%, followed by SCOPE1 at 5.3% and SCOPE3 at 4.7%. A legend to the right of the chart identifies the colors: blue for SCOPE1, green for SCOPE2, and yellow for SCOPE3.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SCOPE1</td> <td>5.3%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE2</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3</td> <td>4.7%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope	Percentage	SCOPE1	5.3%	SCOPE2	90.0%	SCOPE3	4.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE2 : 202,004[tCO2]</li> </ul>
	Scope	Percentage								
SCOPE1	5.3%									
SCOPE2	90.0%									
SCOPE3	4.7%									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE3 : 10,598[tCO2] (算定はカテゴリ-6及び8)</li> </ul>									

# 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイナンスに際して特に留意する事業の一つに石炭火力発電セクターを設け、石炭火力発電に係る新規与信採り上げに際しては、OECD公的輸出信用アレンジメントなどの国際的ガイドラインを参考に、石炭火力発電を巡る各国ならびに国際的状況を十分に認識した上で、ファイナンスの可否を慎重に検討している（リスク）。</li> <li>● 「地球温暖化・気候変動」への対応を優先的に取り組むべき「環境・社会課題」の一つとして捉え、環境負荷を低減して持続可能な環境・社会の実現に貢献する取り組み（再生可能エネルギーの推進と普及、事業法人によるグリーンボンド発行のサポート等）を進めている（機会）。</li> </ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバルな金融機関として、低炭素社会への移行をはじめとする気候変動への世界的な取り組みに関して大きな役割を果たしうる立場にいると認識。</li> <li>● パリ協定、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）を支持しており、長期削減目標の設定により、持続可能な社会の実現に貢献していく。</li> </ul>

# 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在、傘下の銀行において、「2030年度における電力使用量原単位（電力使用量/延べ床面積）を2009年度比で19.0%削減する」との目標があるが、既に26.0%削減を達成。</li> <li>● パリ協定の2℃目標を踏まえれば、更なる削減が必要とされることから、自社電力使用に関わる再生可能エネルギー由来の電力調達を検討すると共に、SBT認定に必要な項目の洗い出しを実施。</li> </ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SBTの認定取得のためには、主に以下への対応が必要であり、今後も継続検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・GHG排出量を算定する連結子会社の特定（現状は子会社209社中4社を算定）とデータ収集の態勢整備</li> <li>・Scope3のカテゴリー15「投資」におけるGHG排出量の算定</li> <li>・SBT認定基準を満たす削減目標を達成するための、具体的な取組み（再エネ調達の実施等）</li> </ul> </li> </ul>